

科学研究費助成事業（基盤研究（S））公表用資料  
〔令和2（2020）年度 研究進捗評価用〕

平成29年度採択分  
令和2年3月31日現在

天皇家・公家文庫収蔵史料の高度利用化と日本目録学の進展

— 知の体系の構造伝来の解明

Advancing Japanese Bibliographics and Improving the Accessibility of Documents Held by Royal and Aristocratic Archives – Clarifying the Structure and Transmission of Knowledge Systems

課題番号：17H06117

田島 公 (TAJIMA ISAO) 東京大学・史料編纂所・教授



研究の概要（4行以内）

宮内庁書陵部蔵家分け本・陽明文庫本など天皇家や公家の文庫に収蔵されて来た(いる)史料群に目録情報を付したデジタル画像のWeb公開や京都御所関係資料の高度利用化により、古典籍の利用環境を大幅に改善し、古典研究の再生に寄与すると共に、日本目録学の進展・体系化と国際発信を図りながら、前近代日本の「知」の体系である文庫の構造や書物の伝来を解明する。

研究分野：日本史

キーワード：日本目録学、日本古典学、禁裏(天皇家)文庫、公家文庫、Hi-CAT Plus、書陵部所蔵家分け本のWeb(インターネット)公開、九条家本、伏見宮家本、東山御文庫本、柳原家本、中井家文書、『新訂増補日本古代人名辞典』、前近代の「知」の体系、文庫論、書物史、宝蔵

1. 研究開始当初の背景

日本古典学を取り巻く研究環境は厳しいものがあるが、1998年度からの過去4回17年間に及ぶ大型科研費(基盤研究(S)・(A)2回・学術創成)による天皇家(禁裏)・公家文庫の目録学的研究により、東京大学史料編纂所閲覧室で宮内庁書陵部図書寮文庫所蔵本・京都御所東山御文庫本・陽明文庫所蔵近衛家本等のデジタル画像の閲覧公開を実現してきた。しかし「公開」と言えばWeb公開を指すようになった状況下で、その集大成として、書陵部所蔵家分け本等のWeb公開を中心とし、古典籍・古文書の高度利用化と定着しつつある日本目録学の進展を目指すPJを思い立った。

2. 研究の目的

(1)書陵部等所蔵の禁裏・公家文庫収蔵史料約100万画像(メタデータ付き)を既存の公開システムを改良してWeb公開、(2)東山御文庫本及び京都御所・同離宮所蔵歴史・文学・建築・美術・庭園等の学術資料の高度利用化、(3)日本目録学の基盤を固め浸透させる為の、家ごとの文庫史・蔵書目録・研究論文等の体系化とその総体の提示及び国際発信、(4)日本古典学振興の為のDB・研究支援工具の作成と研究者・市民向け古典学の公開講座の継続。以上四点の研究を通じ、古典学の研究環境を大きく改善し、研究者に希望を与える新しい史料や研究視角を提供すると共に、文庫や書物群を中心とした前近代日本の「知の体系」の構造と伝来を通時的・共時的に解明する。

3. 研究の方法

(1)史料編纂所の従来の所内閲覧システムであるHi-CAT PlusをWeb公開可能なシステムに改修し、天皇家・公家収蔵家分け史料のデジタル画像約100万画像をWeb公開する。(2)史料編纂所で公開中の東山御文庫本の全容の解明を試み、同本デジタル画像と侍従職所蔵『東山御文庫目録』や近世禁裏文庫の蔵書目録との対応関係を解明したり、同別置本のデジタル画像の撮影を推進したり、近世京都御所造営史料のデジタル画像を蒐集する等、京都御所・離宮関係の学術資料の高度利用化を促進する。(3)日本目録学の基盤固めをするため、高松宮家・近衛家の文庫の近代の蔵書形態を示す資料の提示や1945年に焼失した近世一条家文庫の研究、中世の天皇家の宝蔵と「宝蔵絵」目録の研究を行うなどして、禁裏・公家の文庫ごとの研究の深化や体系化をし、日本目録学の総体を提示し、更に国際発信も行う。(4)日本目録学の成果を応用した日本古典学振興の為のDBとしての古代史最大の研究工具『日本古代人名辞典』の大幅な増補改訂を行い、宮内公文書館管轄「特定歴史公文書」内の『天皇皇族実録』をDB化するなど、研究支援工具等の作成を行い、更に禁裏・公家文庫収蔵の未翻刻史料の研究・公刊を促進し、研究者や市民向け古典学の公開講座である「陽明文庫講座」「岩瀬文庫講座」などを継続する。

4. これまでの成果

(1)史料編纂所DBであるSHIPSのHi-CAT Plus

より、書陵部図書寮文庫所蔵「家分け本」(伏見宮家本・桂宮家本・九条家本・柳原家本・三条西家本・壬生家本[函号F9]・平田家本・白川家本・続群書類従本)約56万画像を2020年3月3日よりWeb公開した。

(2) 公益財団法人陽明文庫所蔵「一般文書目録」記載資料(宸翰類)の画像データ約5千点の試験公開を同文庫HPの「陽明文庫デジタルアーカイブ」より開始した

(3) 『皇室の至宝 東山御文庫御物』1~5(毎日新聞社 1999・2000年)の為に撮影されたに4×5カラーフィルム約2千枚をデジタル化し、Excelの対照表も作成した。東山御文庫本図面類の高精細デジタル画像(369コマ)を初めて蒐集した。東山御文庫別置本『お湯殿上日記』のデジタル画像約2万コマを蒐集した。

(4) 書陵部所蔵内匠寮京都出張所旧蔵中井家本のうち、平井聖編『中井家文書の研究』1~10(中央公論美術出版 1976~85年)の為に撮影された図面類の4×5モノクロフィルムからデジタル画像2,344点を蒐集した。同中井家本のうち「安政度造営関係資料(帳簿類)」をデジタル撮影し、8,378画像を蒐集した。

(5) 京都などに所在する天皇や皇族の陵墓の石塔を実測した書陵部蔵「陵墓石塔実測図」528枚をスキャンして蒐集した。

(6) 仁和寺所蔵「絵目録」など「宝蔵絵」の目録の研究や、近世一条家文庫の歴史や、一条兼輝の学問・収書に関する研究を行った。

(7) 京都大学総合博物館蔵壬生家文書 1,139点の目録入力・点検作業を行なった。

(8) 高松宮家本の旧蔵形態示す「高松宮家蔵書目録一覧」、近衛家本の旧蔵形態を示す「東北大学附属図書館狩野文庫所蔵「近衛家蔵書目録」」をそれぞれ公刊した。

(9) 『飛鳥宮跡出土木簡』(奈良県立橿原考古学研究所 2019年)の刊行を支援し、古典学研究支援ツールの作成として、天応年間[781・782年]迄の古代人名を網羅する『日本古代人名辞典』1~7の増補改訂版の原稿の修正、新出木簡など出土文字資料や「正倉院文書」・「正倉院宝物銘文」に見える古代人名に関して、悉皆蒐集を行い、約3万件を超える原稿の作成・入稿を終了し、2019年度末現在、「あ」~「わ」までの再校ゲラが出揃った。『新訂増補日本古代人名辞典』上・中・下(吉川弘文館)の2021年度内刊行を目指している。

(10) 学界待望の『陽明文庫本 勘例』上(岩波書店 2018年)・『新訂増補 弁官補任』第一(八木書店 2020年)を刊行した。

(11) 陽明文庫設立80周年記念特別研究集会(2018年)、「陽明文庫講座」、「禁裏・公家文庫講座」、「岩瀬文庫講座」など研究者・市民向け公開講座を開催し、「図録」も刊行した。

## 5. 今後の計画

(1) Hi-CAT PlusによるWeb公開を安定的に維持し、2020年度には西尾市岩瀬文庫蔵柳原家本・山口県立山口図書館蔵今井似閑本・書

陵部所蔵近世公家日記類等のデジタル画像を加え、2021年度末までに天皇家・公家文庫収蔵史料約100万コマのデジタル画像公開を目指す

(2) 書陵部蔵中井家本のうち、「寛政度御所造営関係史料(簿冊)約3万2千コマをデジタル撮影し、未整理だった中井家本の全容を把握する。

(3) 遅くとも2021年度迄に、古代史研究の最大の研究工具である『日本古代人名辞典』1~7を大幅に増訂した『新訂増補日本古代人名辞典』上・中・下(吉川弘文館)を刊行し、新訂増補作業で見出した、古代人名に関する研究成果をまとめた論文集を刊行する。

(4) 『大日本史料』2編・3編未刊部分に相当する『天皇皇族実録』を善本に基づいて入力する。天皇家・公家文庫収蔵の撰関・院政期の儀式書・日記の翻刻や校訂本を刊行する、

(5) 『禁裏・公家文庫研究』第8輯、『最終報告書』、『天皇家・公家文庫の目録学的研究(仮)』等を刊行し、日本目録学を体系化する。

(6) 天皇家・公家文庫に関する国際研究集会を開催し、日本目録学の国際発信を行う。

## 6. これまでの発表論文等(受賞等も含む)

1. 田島公編『禁裏・公家文庫研究』第7輯、

思文閣出版、pp.43-57、2020年)。: Jason P.

Webb「East Asian Bibliographic Traditions

and Japanese Premodern Archives Studies」、

林大樹「失われた近世一条家文庫について、

糸賀優理「東北大学附属図書館狩野文庫所蔵

「近衛家蔵書目録」の紹介と翻刻」、吉岡眞

之他編「高松宮家蔵書目録一覧」等所収。

2. 田島公編『天皇家・公家文庫収蔵史料の高度

利用化と日本目録学の進展一知の体系の

構造伝来の解明 2017(平成29)~2019(令和

元)年度科学研究費補助金[基盤研究(S)課

題番号17H06117]研究成果報告書(中間報

告)』(東京大学史料編纂所、2020年)

3. 飯倉晴武・田島公編『新訂増補弁官補任』

第一(八木書店 2020年)

4. 田島公企画・監修『陽明文庫講座図録』1

(東京大学史料編纂所 2020年)

5. 田島公編『陽明文庫 近衛家伝来の至宝一

設立80周年記念特別研究集会 記念図録一』

(吉川弘文館 2019年)

6. 鶴見泰寿・林部均『奈良県文化財調査報告

書第182集 飛鳥宮跡出土木簡』(奈良県立

橿原考古学研究所)、全108頁、2019年

7. 松澤克行「一条兼輝の学問 - 「兼輝公記」

に見える書籍年表稿 -」、『東京大学史料編纂

所研究紀要』29、2019年

8. 藤原重雄「[第七櫃絵目録] 続考 - 絵櫃の

貸借に関する史料 -」、『東京大学史料編纂所

附属画像史料解析センター通信』79、

pp.10-13、2017年、

7. ホームページ等

<https://www.hi.u-tokyo.ac.jp/kodai/kinri-ku>

[ge-index.html](https://wwwap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/shipscontroller) (禁裏・公家文庫研究の窓)

<https://wwwap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/shipscontroller>

(Hi-CAT Plus)